

平成18年度



# 学校図書ボランティア

講座 & 交流会

記録集



あおば学校支援ネットワーク

平成19年2月23日



## 目次

こんにちは。.....	2
<b>講座の部</b> .....	3
第1回講座.....	3
講演 講師:石川道子さん.....	3
大人のための語り 語り手:菅野智子さん.....	4
第2回・第3回講座.....	5
講義 講師:小阪真理子さん.....	5
実習 指導:小阪真理子さん・貞廣典子さん・菅野智子さん.....	5
講義 講師:笠原由紀子さん.....	10
受講生感想(抜粋).....	14
<b>交流会の部</b> .....	15
第2回学校図書館ボランティアの部屋 ～情報交換と交流の会～.....	15
プログラム.....	15
参加者感想(抜粋).....	16

こんにちは。

あおば学校支援ネットワーク(Aoba School Support Network)です。

「あおば学校支援ネットワーク(ASN)」では、昨年の「図書ボランティアの部屋」に引き続き、青葉区内の小学校で活動されている学校図書ボランティアの方を対象に学校図書ボランティア入門講座を開催いたしました。

今年度の講座の特色は、読み聞かせに関する講演だけではなく受講者の皆さんに楽しんでいただくための「大人のための語り」や読み聞かせの実習、学校図書館整備の基本について幅広い内容を盛り込み、図書ボランティアを始めて間もない方にも気軽に参加していただけるようにしたことです。4回の講座を通して、募集の倍近い55人の方のご参加をいただき、皆様の学校図書への関心の高さに改めて驚いております。

また、講座受講生やボランティアの方々から出された交流会実施の希望を受けて、昨年度に引き続く第2回目の「学校図書館ボランティアの部屋を」別途企画しました。選書をテーマに各自お気に入りの本を持って集まり、本の選び方から活動にいたるまで、どのテーブルでも活発なトークが繰り広げられました。

このたび講座および交流会の様子をまとめ記録集を作成しましたので、皆様の活動にお役立ていただければ幸いです。あおば学校支援ネットワークでは、今後も地域やボランティアのニーズに応えながら皆様の活動のお手伝いをしてまいります。



第3回講座 読み聞かせの指導

## 講座の部

### 第1回講座



講演 講師：石川道子さん

石川道子さんは、瀬田貞二先生に就いて児童文学を学び、「こうさぎ文庫」「お話アンサンブル」などを主宰されています。本日は、子どもと本を繋げる読み聞かせの楽しみについてお話いただきました。

本日配布した本のリスト(添付資料参照)は、私が文庫を主宰している時に、子どもがどんな本を読みたいかを知るカードを作って調査した結果から作成しました。従って子ども自身が選んだ本ばかりで、長い間子どもたちによって読み継がれてきた本が多く、それらの本の中に子どもたちに好かれる秘密があります。ぜひ、ご自身でこれらの本を手にとってすべて読んでいただきたいと思います。

絵本は子どもが自分で読むものではなく、絵を見ながら、大人に読んでもらうものです。絵がありその上に言葉があって、ようやくお話の世界が動き始めてお話が生き生きと子どもの心に届くのです。読み聞かせをしてもらって、お話の楽しさを一挙にらくらくと味わった子どもたちは、好きになったお話の世界を、今度は自分の力で何度でも味わおうとします。このようにして本と子どもが結びつければ、子どもの読書は続いていき、心も豊かに育っていくのでしょう。

本と子どもを結びつけるいくつかの方法の中で私たちボランティアができるのは読み聞かせ活動でしょう。教育の場である学校での読み聞かせには大事な役割が存在します。図書室での図書の並べ方を把握して子どもたちの手に届くような紹介をしたり、子どもたちにとって手の届きやすいように並べられているか気配りしたりすることも大切です。

子どもはどんな本を読みたがっているのでしょうか？聞いている子どもたちにいかにぴったりの本を選ぶのかはボランティアが悩むところですが、子どもと大人の読み方の違いにヒントがあるように思います。子どもは大人以上に主人公に一体化して、その主人公の心を体験します。自分でない何かになって困難に立ち向かい克服する、その達成感、幸福感を体験し、さらにインスピレーションを引き出す絵がある—こうして子どもは話の中に入っていきます。心に幸せが溢れるような体験の本は子どもの心に残る本だと言えます。ですから、子どもたちにどんな体験をさせたいかを考えて本を選んで欲しいと思います。一方、作者のメッセージ性の強い本、文化・宗教の違い

がある本、外的刺激の強い本には注意する必要があります。また大きい年齢の子どもたちには、昔話を読んであげるのもよいと思います。昔話は長い間語り継がれてきたものなので、語りやすく聞きやすいですし、内容的にも人が人として生きる知恵や困難を乗り越える力を教えてくれます。

読み聞かせボランティアは、子どもたちに本の楽しみを伝え、子どもたちが本を楽しむ事のお手伝いをするところに楽しさがあります。時間はかかりますが、ぜひ仲間と一緒に勉強をしたり、情報を交換・共有したり、相談しあったりする過程も楽しんでいただけたらと思います。

大人のための語り 語り手：菅野智子さん

いつもは子どもたちにお話を届ける側の私たちですが、今日は「大人のための語り」ということで、私たちがお話をしてもらい、聴いて楽しんでいただく時間を設けました。今回は「語り」という方法で、語り手から伝えられる言葉だけで聞き手が心の中にイメージを作り、物語として楽しむものです。語り手は、「おはなしのゆりかご」の菅野智子さん、演目は「桃売り殿様」(日本の昔話)と「静かな水」(ペルシャの昔話)の二つをご用意いただきました。菅野さんの温かい声で語られるお話の世界に浸り、心豊かな時間を過ごしました。



第1回講座 講演を聴く多くの受講生

## 第2回・第3回講座



講義 講師：小阪真理子さん

実習 指導：小阪真理子さん・貞廣典子さん・菅野智子さん

第2回講座では、「おはなしのゆりかご」代表の小阪真理子さんから、読み聞かせの方法について、実際にいろいろな絵本をご紹介いただきながらお話していただきました。

第3回講座では小阪真理子さん、貞廣典子さん、菅野智子さんの指導により、グループに分かれて受講生が持参した本を使った実習を行いました。

はじめて「読み聞かせ」をするという方はいらっしゃいますか？（会場内では10名ほどの方の手があがりました。）

「読み聞かせ」という言葉は、実はごく最近に出た言葉で、「語り聞かせ」という言い方を使う方もいらっしゃいます。

ある物語を伝える時、伝え方にはいろいろな方法があります。絵本を見せながら読むのが「読み聞かせ」。耳だけで聞くのが「語り」。「朗読」は読み聞かせとは違うのでしょうか。意外と曖昧に使われている言葉です。

さて、本を読んでやるのが苦手だという方がありますが、わが子でも、孫でも、日常的に会っている関係、インフォーマルな関係における読み聞かせには、テクニック的なものは不要です。1つの絵本を共有するというその空間と時間が大切なのです。

一方、一期一会の相手、その瞬間にしか会えない子どもたちに、より有効な形で物語やお話を手渡すためには気をつけておかねばならないことがあります。

### ・読み始める前に

まず、マイクを使わず、お話は生の声で、肉声で届けてあげましょう。そして「見せる」という気持ちを忘れずに。読み手の持つ絵本が聞く人全員に見えるかどうか気をつけましょう。絵本が見えないことは、子どもたちには非常につまらないことです。絵本の大きさで立つ位置も変わってきます。両端の子どもに本をふらずに、相手がリラックスして見えるように、工夫しましょう。子ども達を「本に集中させる」ことが大切です。

絵本が新しい場合などは、開き癖をつけておきます。

#### ・表紙や見返しの扱いについて

表紙を見せる際には、タイトルを読みます。この時は、まだ物語ははじまっていないので単なる情報として伝えておきます。作者名等を読むならこの時に。(ただし、表紙からもうお話が始まっている本もあります。ですから、一冊、一冊の勉強が必要になるわけですが。)

表紙を開けると「見返し」になります。見返しはゆっくり見せます。本の扉を開いた瞬間から物語の世界が始まります。最後のページを閉じ、見返しを閉じて、裏表紙をパタンと閉じた時に物語の世界が終わり、子ども達は現実の世界に戻ってくるのです。

見返しの次頁に書いてあるタイトルはもう一度読みましょう。ここでは、どんなお話が始まるのか聞き手に心の準備をさせるように読みます。

本文に入る前に何度もタイトルが書かれている本の場合、読み飛ばしてもいいですが、「ぬかした！」と言う子どもがいるかもしれません。無言の同意を与えながら先に進めていくしかありません。

実は「見返し」には、絵本作家はものすごいエネルギーを使っています。例えば「よあけ」では、色の表現だけで「よあけ」という言葉のイメージを伝えていたり、また、「くわずにようぼう」のような、ただ茶色や鶯色一色だけの見返しであっても、お話のイメージや季節感などを表現していたりと、それぞれにきちんと意味があり、作家は細心の注意を払って創っているのです。

#### ・読み方における基本的なこと

これまでも触れているように、読み聞かせでは、聞き手を物語の世界に連れて行ってあげること、また、途中でその世界から降ろさないよう、子どもの集中力を引き出すように心がけることが大切です。

例えば、「ぐりとぐら」のような1頁目からいろいろな情報のつまった本では、すぐ次へめくらず、しばらくの「間」を大切にしましょう。

「 」のところを読むときには、聞き手を見ないように注意します。聞き手を見てしまうと、聞き手は読み手を見てしまい、絵の中の登場人物等に集中できなくなります。

次に、「ページくり」ですが、一場面、一場面ごとに聞き手にきちんと伝え終わってからめくることが基本です。つまり、自分の読んだ声が消えてから、納得した空気が伝わってから、ページくりの動作に入ります。めくる時は画面を手が横切らないように注意しましょう。

もちろん、次の場面に急展開するような場合には、必ずしも声が消えないうちにさっとめくる必要も生まれてきます。時には、素早く、時にはじらし、ためる。ページくり

の緩急は、絵本の世界から、子どもの集中がとぎれないようにするためにとても重要です。一頁毎に、本毎にこの「間」は違ってきます。

なぞときの絵本のように、左ページに問題、右ページに答えがある本、あるいは、左右のページの間時間に時間経過がある本などは、本を折り曲げていいのかというご質問を受けることがよくあります。子ども達に「本がこわれてしまう！」という意識を一瞬でも持たせないように扱えるなら、右頁に「おち」がある場合など少し折り曲げてかまわないですが、ほとんどの場合、読み手がきちんとその頁を見て読むだけで、聞き手は頁についてきてくれるものです。

例えば、「わゴムはどのくらいのびるかしら」では、ぼうやが輪ゴムを引っ張って引っ張っていき、最後のページで「ポーンと、はねて、」(左ページ)「ぼうやはベッドにちやくちした」(右ページ)という時間経過は、折り曲げて右ページをぎりぎりまで見せない方が効果的です。この本などは、最後の見返しにさらに「おち」が隠されていて、高学年にも喜んで聞いてもらうことができます。

ことばが少ない絵本をどうしたらよいでしょうか。文字の少ない絵本は聞き手と一緒に楽しめる本と考えましょう。「困った時の五味太郎」などとよくいわれますが、「えものはだれだ」などは、実は6年生でも楽しめてしまいます。

物語にはさび(クライマックス、核心部)があります。そこを知る、気がつくことが大切です。そして自分のエネルギーをそこに集中して聞き手と一緒に楽しみましょう。

前出の「よあけ」などもことばが少ない絵本ですが、ことばを耳で聞くだけでも、大人でも楽しめる絵本です。絵にほとんど変化がありませんが、時間の流れで空気が動いていて、蛙の飛び込む水音までが聞こえてくるようです。最後に「よあけ」を迎える場面でクレッシェンドして終わります。(最後に表紙にかえることはしないほうがいいと思います。表紙にかえるのは物語の外のことで別の問題です。)

擬態語がたくさんでてくる本もあります。例えば、「ころころころ」。擬態語を読むときは、この作者が描きたかった音を読み手が描くつもりで、どんな風に読むのか工夫することが大切です。うれしい音？ 哀しい音？ 怖い音？ いろいろ試してみましょう。

「てぶくろ」のように肝心な場面の絵が少なく、話がぎっしりつまっているような場合もあります。(この本には、当時のロシアの出版事情で紙が足りなかったのが絵が少ないという背景があるのですが。)このようなお話ではどんなお話なのか、読み手がよく理解してから読むことが大切です。

いろいろな動物がおちていた手ぶくろの中に次々と入っていくお話です。「おおかみ」や「くま」と書いてあるからといって、声色を駆使して怖い声をだしてもよいのでしょうか。こどもたちが「中の動物たちが食べられちゃう」と感じては、元も子もありません。上手な読み手が陥ることですが、テクニクにはまらないことです。

とうとう「てぶくろ」に熊まで入ってしまったことの「もじゃもじゃ感」といったものを読み手に楽しませてあげて下さい。聞き手の子ども達の頭の中では、果たして、てぶくろが大きくなっているのでしょうか、キャラクターたちが小さくなっているのでしょうか。

\* \* \* \* \*

お話の後は、講師による読み聞かせの実演「おつきよちゃんとかっぱ」に続いて、短い時間でしたが、受講者の中から希望されたお二人に読み聞かせの実演をして頂きました。

お二人の方が読まれたのは、「いたずらきかんしゃちゅーちゅー」と「くんちゃんのはたけしごと」。それぞれについて、講師から下のようなどとも貴重なアドバイスを頂くことができました。あらためて、読み聞かせの奥の深さを会場の皆さんが感じておられたようです。

「いたずらきかんしゃちゅーちゅー」:

絵のリズムにしたがって読むこと。そのためには、前もって何度もよんでおくことが大切。読み手が物語にのめりこんでしまうと、語尾が聞き取れなくなることが多い。常に聞き手に、見えているか、聞こえているかと考えながら読むとのめりこまなくなる。

「くんちゃんのはたけしごと」:

お父さんがくんちゃんをしかる、さとす場面がたくさんでてくるが、何のためにこの本が書かれているかということに、きちんと気づくこと。聞き手であるこどもたちがそうあってほしい、そういうお父さんであってほしいという思いをくんで読む。

\* \* \* \* \*

第3回目では、参加者全員が3グループにわかれて、ひとりずつ読み聞かせを行うワークショップが行われました。皆さん緊張気味でいらっしやいましたが、それぞれ個性のある楽しい選書をされておられました。

3人の講師の方からは、前回に続いて、それぞれに的確なアドバイスを頂くことができました。全てを掲載することはできませんが、少しでも各グループでのお話の様子を抜粋してみますと...

「文章を読み終えないうちに手が動き始めていませんか？」

「急ぎがちな方、余裕がないと感じる方は、ページくりの間に聞き手の皆の顔が見れ

ていますか？」

講師の方からは、立ち位置の注意などにつづいて、まず基本の確認のお声がかかっていました。時間と空間を自分のものにするのはとても難しいですね。つい、お話に力がはいってしまうと早口になってしまったり、「語り」になってしまったり。

皆さんが読まれた本から。

「ぐりとぐら」:

この本はアップテンポでリズムがよいので、「間」の練習に最適だそうです。(できあがったホットケーキを見せる場面で、先に次のページの文を暗唱しておいて読んでしまってさっとめくるというやり方があるというご紹介もありました。)  
「ぼくらの名前はぐりとぐら. . .」と歌う場面がありますが、歌の部分の工夫は皆さんどうされていますか？この場合は「ごんべさんの赤ちゃん(ソソソファミソドレ. . .)」の替え歌などにしてうまく盛り上げて読める人もいます。

「3びきのやぎのがらがらどん」:

複数の方が選ばれていた本です。この本が、本国ではあまり売れず、日本で何故か売れているのは、訳者のリズムがよいからとのこと。3びきのやぎのキャラクターをはっきり演じ分けるのがポイントのようでした。

「よるのびょういん」:

谷川俊太郎作の写真絵本です。他にも「こいぬがうまれるよ」「月・人・石」などがよい写真絵本で、3年生ぐらいからどの学年でも読むことができるというお話がありました。

「よい」絵本をみつける時には、誰かに読んでもらうのがよいですね。絵だけで物語が理解できること、いい文章が耳に残ることがよい絵本の条件だそうです。

最後に、もしも学校から特別のテーマにそって本を選んで読んで欲しい(例えば「戦争をテーマに」というように)という依頼があった場合、無理をしないで断ってかまわないというお話もありました。もしも、テーマにそって本を選ぶのであれば、文学性があるか、子どもの心にとどく本なのかを考えて選ぶとよいということでした。

## 第4回講座



講義 講師：笠原由紀子さん

横浜市都筑図書館の司書の笠原由紀子さんに、学校図書ボランティアの役割や活動についてお話いただきました。その後、青葉区内の小学校の図書室の様子を写真映像で見ながら、分類や整備のコツ、装飾やその他の工夫について解説があり、受講生一同活動へのイメージをふくらませました。

### ・図書館とは

図書館は資料の収集、整理、保存が基本的な機能として図書館法で定められています。3つのうちひとつ欠けても図書館は成立しません。そして、図書館員はその3つの要素を結び付けています。

### ・学校図書館とは

学校図書館には、学習センター、読書センター、情報センターとしての役割があります。特に最近では情報センターとしての機能を大変重視してきており、検索ファイルや新聞の切り抜きをテーマ別に整理した情報ファイルなどが注目されています。

ボランティアの仕事には、読み聞かせ、季節感を取り入れた掲示物や展示物の作成、フロアワークなどいろいろありますが、一番大事なものは書架整理ではないでしょうか。

実際に活動されている図書ボランティアさんに聞くとその前に掃除が必要だということでした。掃除も子どもたちでは届かないところがあります。それからカーテンを替えると雰囲気が変わりますし、観葉植物を置くのもいいです。水遣りが大変なら今は造花でもいいものがあります。クーラーがあることも大事と言われていました。図書館になくてもよいものが置かれて倉庫代わりにしていることもあるので見直して整理するとすっきりします。

ここで事例が掲載された冊子を2冊紹介

#### ① 2001年に川崎で行われた図書フォーラム「図書館活動とボランティア」の記録『南生田小図書ボランティアの導入』

活動目的や目指す図書室・絵本室、整備内容(机・いす・カーテン・書架・大型テレビ等)について書かれている。PTA・地域・ボランティアの協力を得て、全教職員で取り組みたいとなっており、学校を挙げて図書室の改善に取り組む意欲が感じられる。

## ②『図書館をつくる 教育を変える』

学校図書館大賞を受賞した山形県鶴岡市立朝陽小学校における図書館の改革内容について書かれている。学校司書が常駐しているので子どもたちはいつでも図書館へ行くことができる。



ボランティアの役割は、子どもと本を結びつけるための、担任の先生と子どもたちへのサポートです。学習指導要領が改訂されて図書館を使った総合学習が大切になっているので、ぜひ活動する学校の教育目標や授業計画を知るといいと思います。また、規約や日誌を作成し、活動が継続できるように努力します。担当の先生とのやり取りが重要ですが、時にはうまくいかないこともあるし、スタッフも揃っていないときとそうでないときがあります。掃除をただけでも雰囲気が変わるので、できることから楽しく活動しましょう。

学校図書館は生涯学習の基礎を養う場で、子どものときに図書館を利用した体験があると大人になっても図書館を使いこなしていけます。欧米では図書館が学校の中心にあって移動時には必ず通る設計になっており、読書を大切にしていることが分かります。

レジュメに掲載した小河内芳子さんの『どくしょのよろこびを 児童図書館と私上』はゆっくり何度もよく読んでほしいと思います。読書は楽しみで考える力を身につけてくれ、物の考え方や見方を深くします。子どもたちはいつも「何か面白い本はないかな」と探しているのので、メイン展示などで子どもたちの興味と結び付けられるといいと思います。

自分にとって読書がよいものだと思った子は生涯にわたって本と友達になりますが、それを見つけるのは自分自身です。自分で面白いなと見つけるまでは、読まなかったり手に取らないときがありますが、強制的に進めるのではなく、きらいにさせないでいつか自分で見つけさせるようにサポートするのがいいでしょう。

### ・楽しく使いやすい環境作り

図書室の環境として、必要な掲示物は、本の配置図、十進分類法の表、今日の日いち・返す日いち、本の借り方・返し方、図書当番表、図書室配当表(クラスの割り当て表)で、子どもの目線の高さに貼ってあることが大切です。また、いろいろな情報を盛り込み過ぎたり絵をたくさん入れたりすると子どもには分かりにくいので、分かりやすく簡潔にすることを念頭におきます。子どもたちが自立して自分で資料が探せないといけないので、特に、配置図と分類表は必要です。

楽しく使いやすい環境作りとしては、暖かい雰囲気作りが大事です。目的は子ど

もと本を結び付けることなので、ただ装飾で飾りつけるのではないことはおさえておいてください。テーマ展示は1年の計画をたてると様々な本が手に取れるようになります。新刊カバーを展示に使っている例がありますが、発色もよいので雰囲気がよくなります。忙しい先生に代わってボランティアが倒れている本を直すだけでも荒れた雰囲気がなくなります。

ひとりで探したい本を見つけられ探せるという当たり前のことが難しいので、図書館は労力を使って分類ラベルをつけて配置をしています。分類をアバウトに決めると本が探せませんし、図書館の担当の先生が変わるたびにオリジナルのラベルを貼っていた学校がありましたが、4種類もラベルが貼ってあってどれをみていいかわからない状況になっていました。また、分類体系は大人でも難しいし、複雑になるともっと分かりにくく、3段もあっては子どもには分かりません。小学校なら1段ラベルをお勧めします。分類番号はたとえば「38.8」をサン ハチ テン ハチと読みます。



3段ラベルの例

ラベルのつけ方は横浜市立図書館の例で説明します。物語は著者の姓の五十音順です。書名順は書名を正確に覚えていないことがあるし、同じ著者の本がばらばらになるのでお勧めしません。絵本は大きさがいろいろなので苦労しますが、創作絵本、ノンフィクション絵本、小型絵本に分けて画家の姓の五十音順に並べています。知識・科学の本は児童用に分かりやすくしたり、特別分類にした箇所もあります。

目録はコンピュータ管理にすると検索機能が充実するので図書館が探しやすくなります。装備の蔵書印は、最近ではバーコードラベルに代える学校もあります。

ページの破損の修理には、ページヘルパーを利用します。セロテープは劣化するので使いません。のりはでんぷん製のやまとのりをお勧めします。のりをつけすぎることがないように、先が細くなっているのりが出せるものやへらを使うと便利です。糊付け後はクリップでとめて2時間以上おきます。詳しくは「図書館員のための図書補修マニュアル」小原由美子著をご覧ください。

本の並べ方は左上から右下へ、書架も左から右へ並べます。配架は数字や五十音順のように単純な方法が一番分かりやすいです。求める本を探せるようにするために必要なことは、本を必ず正しい位置に戻すということです。また、本が倒れると危険なのでストッパーを使ってきちんと立てておきます。高い場所にも配架してある場合はキックステップを置いて安全に配慮します。

貸し出し方法で台本版の利用はプライバシーが守れないし、置いた場所もわからなくなるのでやめたほうがよいです。ブックカードは読書記録になります。

・本は友だち、読書の楽しさを伝えよう

知識・科学の本で出版年が古く児童に間違っただ知識を教えることになるものは廃棄します。高価な本で廃棄ができなければそれを補う新しい資料を用意してあげたいと思います。

本と子どもを結びつける様々な工夫に、ブックリスト作り、おはなし会、ブックトーク、読書クイズなどがあります。都筑図書館では読書スタンプラリーをして、スタンプを押し終わると表彰状をあげるのですが、子どもたちは紙一枚でも喜んで参加しています。

・あなた自身のステップアップのために

子どもたちに自信を持って本をすすめるには、たくさんの児童書を読むことです。読んでいくうちにいい本を見る目が養われて本選びができるようになります。都筑図書館や山内図書館には児童書研究コーナーがあるので、研究書も読んでみてください。

ブックリストは絵本・ノンフィクション・総合など様々な分野で多く出版されています。中でも、「子どもの本 この1年を振り返って おすすめの本 200選」はお勧めです。4月の中旬に発行されるので、1年分の図書をまとめて購入するような場合の選書にも有効です。「子どもの本棚」でも毎年5月号で1年間の本を振り返ってという特集を組んでいます。

研修会を行っている団体や発行されている雑誌、ボランティア活動に役立つ本やインターネットサイトも多数あります。「NPO図書館の学校」「学校図書館問題研究会」「(社)全国学校図書館協議会SLA」「(財)東京子ども図書館」「日本子どもの本研究会」等の団体では、研修会を開催したり雑誌を発行しています。ホームページを見ると研修の日時が分かりますし、リンクから様々な団体の活動状況を知ることができます。「(社)全国学校図書館協議会SLA」のホームページなど時々ご覧になれるといいと思います。「教文館子どもの本のみせナルニア国」ではメールマガジンに登録すると、新刊情報を見ることができます。「こどもの本 on web」ではテーマ別のブックリストがあります。「国際子ども図書館」の児童書総合目録はキーワードを入力して検索できます。市立図書館のサイトも「全項目」にすると書名や著者名が不確かな蔵書の検索ができるようになっているので便利です。

今日は著作権については触れませんでした。日本書籍出版協会のホームページでは著作物利用許可申請書のダウンロードができます。学校教育と著作権団体との取り決めのガイドラインも見ることができるので分からなくなったら参考にしてください。

## 受講生感想(抜粋)



- ◇図書ボランティア＝読み聞かせとっていましたが、図書館支援も興味が出ました。
- ◇活動がスタートしたばかりなので、まずはできることからやっていきたいと思いました。
- ◇温かい図書室を目指しています。いろいろよいアイデアをありがとうございました。
- ◇今まで自己流で読み聞かせをしていたが、奥深さを知り、大変有意義な講座でした。
- ◇4回目の講義のお話は今後役立てていきたいと思いました。
- ◇本の大切さを改めて認識しました。
- ◇ボランティアの活動内容や場所などの情報を得られたので有意義でした。
- ◇図書ボランティアは手探り状態でしたので大変参考になりました。
- ◇読み聞かせでは深いところまでの事前の読み込みが必要なことなど勉強になりました。
- ◇本の修理の実演があればよかったと思います。
- ◇心あたまる豊かな時間を過ごすことができました。
- ◇知人・友人に興味のある方はたくさんいるので、ぜひまた講座を開いてもらいたい。
- ◇読み聞かせの仕方、選書の仕方、とても勉強になりました。
- ◇読み聞かせの具体的なテクニックがとても勉強になりました。
- ◇ボランティアとはいえ、皆さん勉強熱心で、奥が深いなあと感じました。
- ◇子どもが通う学校の図書ボランティアに参加してみたいと思うようになりました。
- ◇大人のための語りがうれしかったです。とても素敵でしたね。
- ◇図書室が学校にとって大切な所であることを先生に知ってもらいたいです。
- ◇基本を丁寧にお話してくださったのが良かったです。
- ◇語り(静かな水)が良かったです。
- ◇これから読み聞かせを始めるので各回とも「そうなんだ～！」と思うことばかりでした。
- ◇子どもたちが本好きになる手助けになればと思います。
- ◇学校の図書室がスライドで見た学校とあまりにも違うのにショックを受けました。
- ◇読み聞かせの実習が大変勉強になりました。
- ◇図書委員の児童の自主性を重んじる学校方針の中で保護者として何か手伝いたい。
- ◇理想の図書室のあり方を聞くにつけ現実が打開できないかと思う。
- ◇長年読み聞かせ等をされている方はセミプロ級すごいなと刺激されました。
- ◇4回連続は内容的に工夫されていて実になるものが多いと感じました。
- ◇ボランティアに参加されていないお母さんにも情報が行き渡るといいと思いました。
- ◇コンピュータ化するにあたり、限られた人の負担にならず進められた例が知りたい。
- ◇ボランティアの役割、図書室の環境作り、分類等勉強になりました。

## 交流会の部

### 第2回学校図書館ボランティアの部屋 ～情報交換と交流会～

昨年度好評を得た交流会の継続の要望にこたえて、選書をテーマに第2回目の「学校図書館ボランティアの部屋」を開催しました。当日は参加者がそれぞれお気に入りの絵本を持って集まり、本の選び方から活動にいたるまで、どのテーブルでも活発なトークが繰り広げられました。また、あらかじめ参加者から寄せられた情報はブックリストにして配布しました。

#### プログラム



#### 1. 参考図書・資料の紹介

- 実践ガイドブック(横浜市小学校図書館研究会)
- 小学生にすすめる本(横浜市小学校図書館研究会)
- 本の世界をひろげよう(子どもが本に親しむためのプロジェクト大作戦実行委員会)
- 図書ボランティア入門講座等資料

#### 2. 実践ガイドブックの読書編よりワークシート例の紹介

- ブックウォーク
- 読書オリエンテーリング(高学年)
- 読書ゆうびん

#### 3. 読書ゆうびん体験

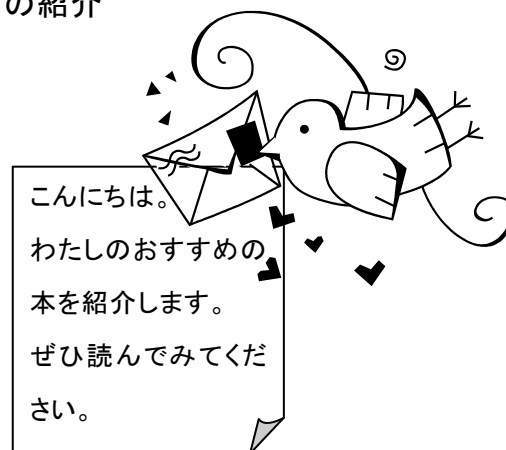
- 読書ゆうびんの作成
- 差し出し、受け取り

#### 4. 自己紹介

- 氏名や活動内容をひとことずつ紹介
- 参加者の自己紹介を聞いて、受け取った読書ゆうびんの差出人を確認

#### 5. 情報交換

- テーマ①「おすすめの本」



## 資料に未掲載で紹介された図書

・ おれはねこだぜ	佐野洋子
・ ペコペコ	佐野洋子
・ ほんとうにたいせつなもの	マックス・ルケード
・ きみはきみらしく	マックス・ルケード
・ たったひとりのきみ	マックス・ルケード
・ おやすみなさいフランス	ラッセル・フォーバン
・ もぐらのバイオリン	デービット・マクフェイル
・ はなのすきなうし	マンロー・リーフ
・ モチモチの木	斎藤隆介
・ くものニド	いとうひろし
・ こいぬがうまれるよ	ジョアンナ・コール

## ➤ テーマ②「図書ボランティア活動」

### 参加者感想(抜粋)



- ◇ 学校図書ボランティアの役に立てたいと思いました。
- ◇ 自由な情報交換ができてよかったです。
- ◇ いろいろな方の「本」への愛情の種類を知ることができとても勉強になりました。
- ◇ 読み聞かせの本の選び方のヒントが大変参考になりました。
- ◇ 現場の話を聞けるのがとてもよいと思うので交流会をもっとやってみたいです。
- ◇ とても楽しかったし、まだまだ時間がほしいと思いました。
- ◇ 絵本ひとつでもいろんな内容、文章、絵などあることを知り、ひとつひとつが大切な語りになっていることを知りました。
- ◇ フランクな雰囲気の中で、皆様のお話を伺うことができ大変参考になりました。
- ◇ いろいろな方の読み聞かせの考えやたくさん本を紹介していただき、参考になった。
- ◇ 若い現役のお母さん方の具体的なお話がたくさん伺えて参考になりました。
- ◇ 他の学校の読み聞かせの事情がわかって参考になりました。
- ◇ 他の小学校の方、地域文庫の方の活動が聞けてよかったです。
- ◇ おすすめ本の紹介が参考になりました。
- ◇ いろいろな学校の方と意見交換ができて楽しかったです。次回もどうかお誘いください。
- ◇ 皆さんの本に対しての知識や熱意が伝わりました。読み聞かせに生かしたい。